

令和元年度 河川財団 研究発表会（近畿事務所）の報告

近畿事務所（大阪）では、去る11月27日（水）に、令和元年度河川財団研究発表会（近畿事務所）を開催しました。

発表会では、河川基金助成事業成果より7題、近畿事務所の受託成果より1題、特別講演1題の話題を提供いただきました。

河川基金助成事業成果87題の中から、時代を反映し、近畿に関する研究の中から『大和川遡上アユの起源推定による近隣河川との生態系ネットワーク解析』『河川堤防のパイピングの進行過程に関する定量的評価手法に関する研究』『コイ目線の琵琶湖ドキュメンタリー：動物搭載型ビデオを用いた琵琶湖流入河川の河口域における在来魚類の生態観察』『大規模 DNA 解析・グリーンレーザー河川測量による国天然記念物アラレガコ保全策の策定』『東横堀川・道頓堀川の貧酸素化解消に向けた水門操作の最適化に関する研究』『外来草本セイバンモロコシの刈取り管理ならびに九州20水系への外来植物の侵入特性』『平成29年九州北部豪雨災害の分析に基づく流木災害のL1・L2設定基準の提案』計7題の研究成果を発表していただきました。

特別講演は、京都大学大学院地球環境学堂の田中周平准教授をお招きし、『マイクロプラスチックによる水環境汚染の現状』のご講演をいただきました。

国、地方自治体、企業、研究機関などから多数の方が参加され、どの発表や講演にも活発な質問やコメントがあり、盛大のうちに閉会しました。

発表者や講師の方々、ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



講演風景（田中周平准教授）



フロアからの質問状況

（担当：近畿事務所）